

環境報告書
2025



静岡製機のご案内

社 是

創意を発揚し 社会に進歩と安定を

会社概要

- 静岡製機株式会社

創 業：1914 年

資 本 金：1 億 5,355 万円

本 社：静岡県袋井市諸井 1300 番地

従業員数：331 名（2025年度）



事業内容

- 農産物関連機器

穀物乾燥機 共同乾燥調製施設 精米関連機器 玄米低温貯蔵庫
白米保冷库 品質測定機器 穀物水分計 多目的電気乾燥機
CO²施用機

- 業務用熱機器

赤外線ヒーター 電気ヒーター
熱風スポットヒーター

- 環境配慮機器

冷風機 加湿機

などの開発、製造、販売



14001 の取り組み

環境方針

静岡製機は、『環境方針』を基に、環境保全に積極的に取り組み日々操業しています。

環境方針

静岡製機株式会社は社会（世界市民）の一員として、美しい地域・地球を守り、ともに発展していくことを目的として、当社が送り出す農産物関連機器、業務用熱機器、環境配慮機器などの製品及びサービスに全社一丸となって、可能な限り地球環境に配慮した設計・開発・購買・製造・物流・販売・メンテナンスを実施し、これを永遠に継続することを目指して、ここに環境宣言します。

1. 当社は事業活動において、ライフサイクルの視点に立って継続的に以下の環境保護に努めます。
 - ・ 気候変動の緩和及び気候変動への対応
 - ・ 持続可能な資源の利用
 - ・ 環境汚染の予防
 - ・ 生物多様性及び生態系の保護
2. 当社は事業活動において環境関係法令及びその他の順守義務を満たし、利害関係者のニーズ及び期待に応えます。
3. 当社は方針達成のために以下に関わる目標を定め、全従業員で改善につとめます。
 - また、これらについて定期的に見直しをします。
 - ・ 業務効率向上、生産性向上や品質向上による環境への好影響
 - ・ 環境に配慮した開発・設計・サービスによる環境への好影響
4. 当社の全ての従業員がこの環境方針及び環境マネジメントシステムを自覚し、環境パフォーマンスを向上するために環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

ーこの環境方針は一般の人にも入手可能としますー

2017年4月1日
静岡製機株式会社
代表取締役社長 鈴木 直二郎

ISO14001 認証

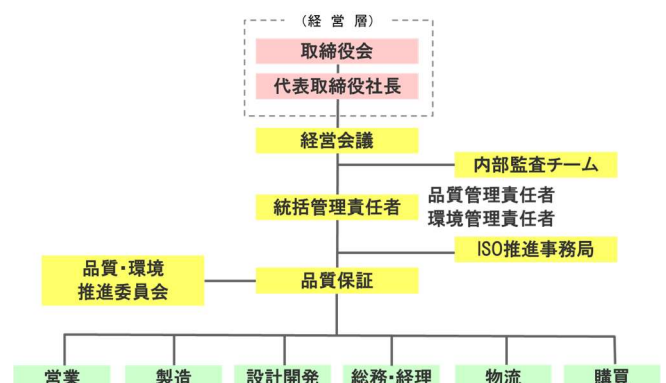
静岡製機は、静岡県袋井地区の事業所において、2001年7月、認証をいたしました。現在、全国すべての拠点で認証取得しております。



環境マネジメント推進体制

静岡製機は、製品およびサービスの各プロセスに責任者を任命し各プロセスの課題、法的要求事項、環境側面などを精査し、環境負荷軽減に効果的な目標を設定し、活動を行います。

2017年4月に、ISO-14001:2015規格認証を機にISO-9001:2015との統合マネジメントシステムとしました。推進体制もQMS、EMS両方をカバーするものとなりました。



環境活動のあゆみ

2000 年	本社地区、ISO14001 認証取得プロジェクトキックオフ
2001 年	高尾事業所の焼却炉を廃止 本社地区、ISO14001 認証取得
2002 年	浅羽工場に LPG ボイラーを設置し重油ボイラーを廃止 本社、柳原の 2 事業所で焼却炉を廃止
2003 年	技術部で環境適合設計ガイドラインを作成 低温貯蔵庫断熱バにネル発泡剤を代替フロンに変更
2004 年	基板、廃棄 OA 機器、蛍光灯、乾電池のリサイクル処分委託を開始 海外輸出向ヒーター、Rohs 規制対応
2005 年	鉛及びクロム含有塗料の使用を全面禁止 ISO14001 - 2004 版規格に更新
2006 年	浅羽工場、温室効果ガス排出量の調査 浅羽工場、T B Z 導入
2007 年	県道美化活動にて社団法人「小さな親切」運動本部より表彰
2008 年	浅羽工場、プレス設備の防音壁の設置
2009 年	環境省より広域処理の認定を受ける
2010 年	㈱クボタ様向け「玄米保冷库」「白米計量機」「生ごみ処理機」について Rohs 規制対応 浅羽工場、電着塗装から粉体塗装に更新 浅羽工場、溶剤塗装設備を廃止
2011 年	袋井市主催「第 8 回袋井市内環境企業交流会」の主会場提供及び見学受入会社として参画
2012 年	ISO 審査会社を ASR 株式会社に変更
2013 年	浅羽工場、変電設備及び B ライン粉体塗装設備更新 浅羽工場、デマンド監視システム導入
2014 年	浅羽工場、第 0 変電トランスを更新
2015 年	浅羽工場、照明 L E D 化実施 浅羽工場、生産 B ライン塗装水切乾燥設備更新
2017 年	ISO14001 - 2015 年度版移行、品質環境統合マネジメントシステム導入
2018 年	ISO14001 - 2015 年度版、全国すべての拠点で認証取得 浅羽工場、生産 A ライン塗装水切乾燥設備更新
2021 年	環境配慮型新本社屋完成、営業開始。(BELS：5 つ星、100%『ZEB』認証取得)
2023 年	『 SDGs への取り組みと約束 』を自社ホームページに公開
2025 年	浅羽工場、屋根遮熱フィルム塗装実施

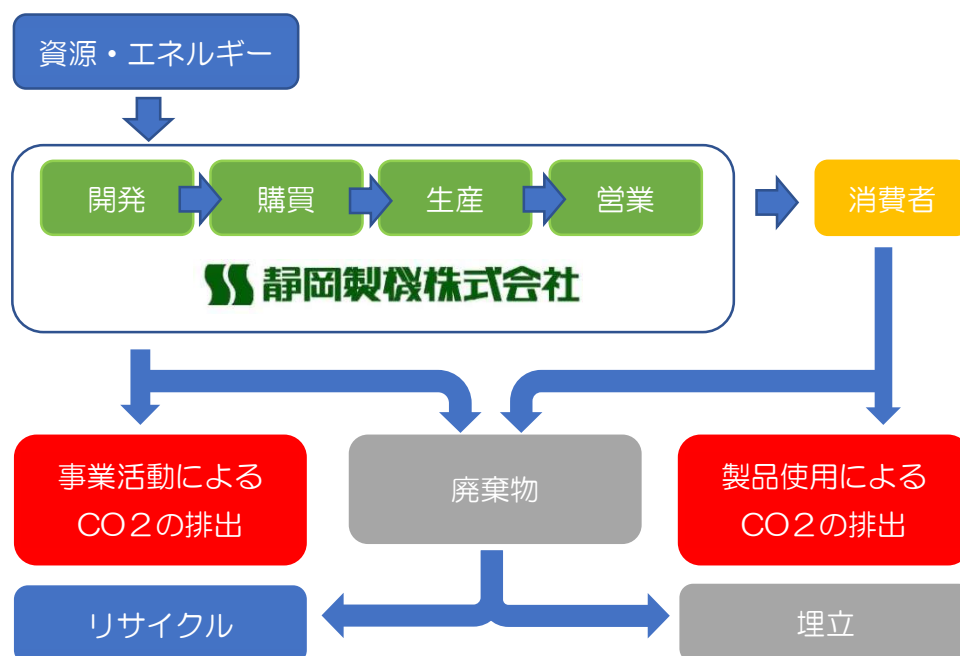


事業活動と環境

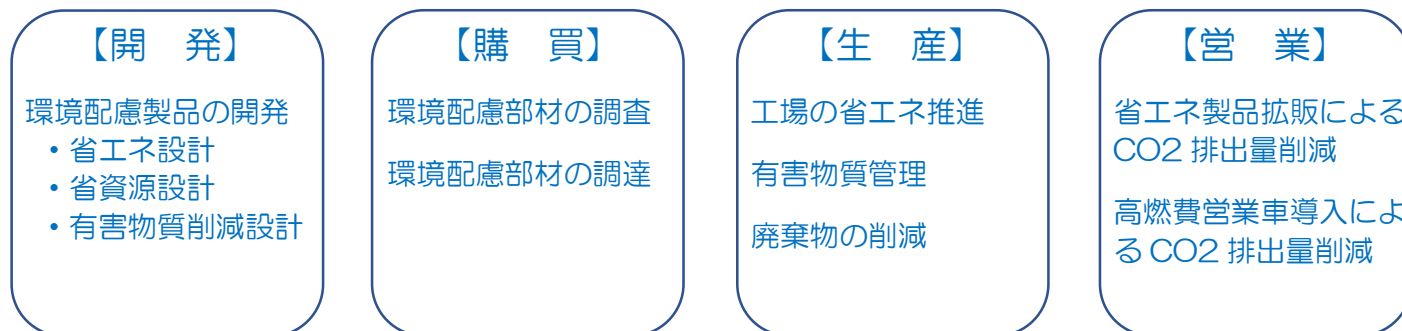
事業活動と環境との関わり

原材料から開発、生産、販売、使用、廃棄といった製品のライフサイクル全般にわたって、環境に対してどのような影響があるのかを評価し、環境負荷低減への取り組みを検討、環境に配慮した製品の開発・生産及び販売を目指していきます。

製品ライフサイクルに関する環境影響			
資源の枯渇	大気汚染	土壌汚染	廃棄物の排出
地球温暖化	水質汚染	騒音・振動・悪臭	フロンへの排出

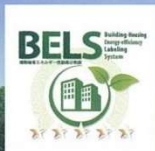


環境負荷低減への取り組み



新社屋のご案内

省エネと創エネを組み合わせた
人と環境にやさしい建物です。



省エネと創エネを組み合わせ、消費エネルギーを実質ゼロに。
この新社屋を新しいスタートラインとして、未来に続くものづくりに一層まい進してまいります。



光風熱を巧みにコントロール

省エネ・創エネに安全を加えた、ZEB+BCPコンセプト。

光をコントロール

- 太陽光発電パネル
- 高効率照明
- センサー付LED照明
- 大きな窓で昼光利用

熱をコントロール

- 高断熱化
- 外壁など外皮性能の向上
- 高効率エアコン
- 日射遮へい型複層ガラス

風をコントロール

- 自然換気の活用
- 高性能換気システム

防 災・BCP対策

- 免震構造
- 非常電源切替設備

省エネ効率101%を実現。人と環境にやさしい新世代のオフィスビルです。



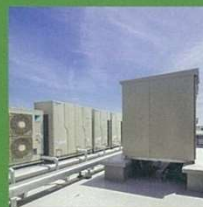
太陽光発電

ZEB100%に対応する大容量の太陽光パネルを、社屋上に設置。災害時には非常用電源として、BCPをバックアップします。



省エネ照明

すべての照明に省エネタイプのLEDを採用。さらに照度センサーを組み合わせ、常に快適でムダのない光量に調節しています。



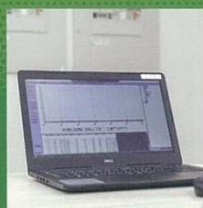
空調

エアコンのある部屋に全熱交換機を採用。外気を取り入れる際に、室内の空気と熱交換を実施して、空調の負荷を低減します。



高断熱化

屋根や外壁、窓から侵入する日射を抑制し、建物への熱の出入りを抑える高い外皮性能を実現。省エネの基本となる構造です。



BEMS

建物全体のエネルギー収支を「見える化」。社員の省エネ意識を高め、さらなるエネルギー削減やコスト低減につなげます。



免震構造

建物と地盤の間に免震装置を設置し、建物に作用する地震エネルギーを低減。人命を守り、事業への影響を最小限に抑えます。

【開発】環境配慮製品の開発

農産物関連機器

おいしさを守る力 安心と安全の新さいこGBRシリーズ



**操作ボックスと
本体のデザインを一新。**



従来モデルでご好評の「玄米ecoモード」と「食味モード」を搭載。

玄米ecoモード コンプレッサー、各種ファンの運転時間を減らし節電を行います。

食味モード お米の品質保持を最優先し、食味の劣化を抑えます。



**地球に優しい
ノンフロン冷媒R1234yf**

地球温暖化係数(GWP値)評価において最良ランク「GWP1」の冷媒を利用し、環境負荷を大幅に低減。フロン排出抑制法対象外のため定期点検なども不要となります。



**周囲温度40℃の
厳しい環境下でも保冷**

周囲温度40℃の厳しい環境下でも安定した運転が可能。
全てのパネルが60mm厚のため、高断熱で安心の保冷性能を誇ります。※GBR5～32
先代GBXから継承した節電性能で、ランニングコストを削減。



業務用熱機器

遠赤外線電気ヒーター
ホカッペe



安全
省エネ
遠赤

裸火でない
安全暖房!

工場
倉庫
休憩所
店舗入口
各種保温



環境配慮機器

地球にやさしい緑風
気化式冷風機

RKF series

711・723・506 α・406 α・306 α



【生産】工場の省エネ推進

静岡製機は、工場の様々な設備を見直し、計画的に投資を行い、さらに環境にやさしく、労働者にも優しい工場を目指しています。

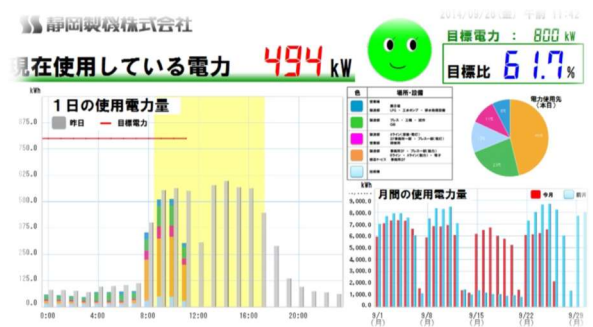
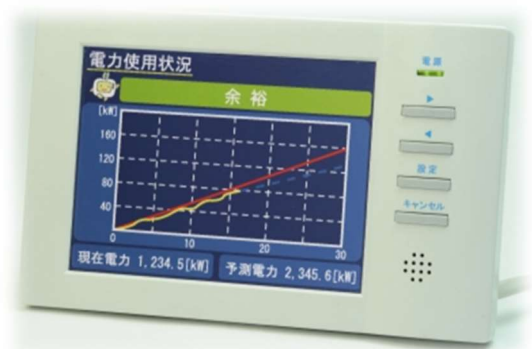
【LED 照明器具】



【工場屋根遮熱フィルム塗装】



【デマンド監視システム】



【粉体塗装ブース】



【タレットパンチプレス機】



【バンディングマシン】



【営業】CO2 排出量削減活動

静岡製機では、営業活動でもCO2 排出量削減に貢献することを考えています。また、販売した、フロン含有機である玄米保冷库等は、環境省より廃掃法特例である広域認定を受け回収・処分を行っています。

【電気自動車の採用】



【廃掃法特例・広域認定証】



【遠赤外線乾燥機の販売】

乾燥機の主要部・バーナー部の燃焼状態の最適化、それに合わせ機体全体の制御部、可動部などを見直すことにより省エネ性能が向上しています。

最新の乾燥機を1台販売しお客様が1年間使用した場合、2005年当時と比較すると60～360kgのCO₂の削減を達成しています。（乾燥機のサイズによってCO₂削減量が変動します。）



【遠赤外線ヒーターの販売】

赤外線を放射する放熱管の表面積を増やしたことで、従来機より暖房性能と省エネ性能が向上しています。

最新の遠赤外線ヒーターを1台販売しお客様が1年間使用した場合、2005年当時と比較すると315kgのCO₂の削減を達成しています。



【業務用ヒーターの販売】

乾燥機の主要部・バーナー部の燃焼状態の最適化により省エネ性能が向上しています。

最新の業務用ヒーターを1台販売しお客様が1年間使用した場合、2005年当時と比較すると440kgのCO₂の削減を達成しています。



【気化式冷風機の販売】

同等能力の業務用スポットクーラーと比べ、電気使用量が少ない気化式冷風機は、冷媒としてフロンガスも不使用と大変環境にやさしい製品です。

同等能力の業務用スポットクーラーを1年間使用した場合と比較すると350kgのCO₂の削減を達成しています。

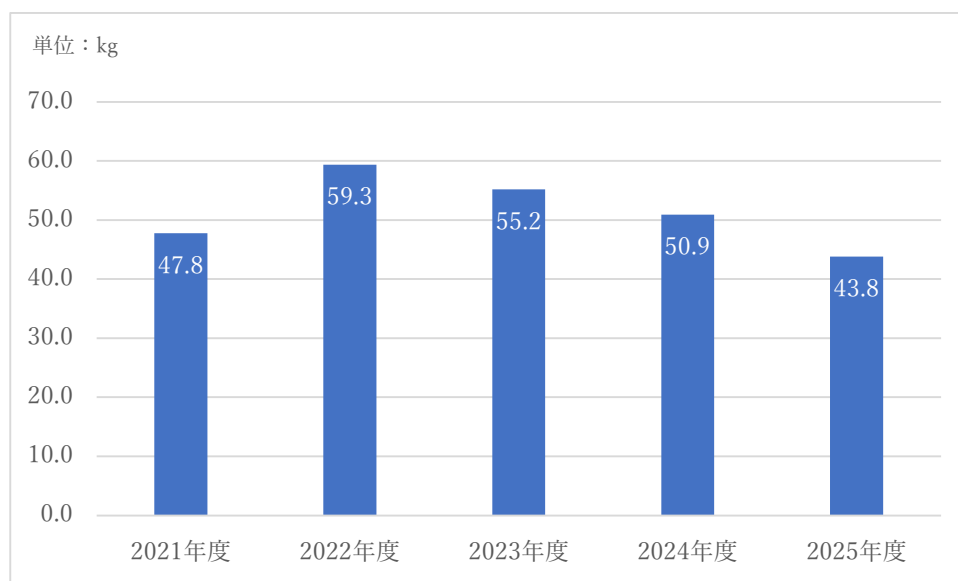


CO2 排出量削減実績

【工場省エネ、生産効率向上による CO2 排出抑制実績】

1 台の製品を完成させるまでに消費したエネルギーを CO2 量へ換算したデータです。この指標は原単位と呼ばれ、値が小さいほど CO2 発生の少ない生産活動が行われたと評価されます。

2022 年度は、コロナ禍の影響により減産、その結果として CO2 排出量が増加しました。ウィズコロナに転換した 2023 年度から生産量も回復傾向にあり、それに伴う形で CO2 排出量も減少となっていますが、年々厳しくなる夏の酷暑に対し職場環境を維持する空調などの電力消費の増大など、継続して取り組まなければならない課題も出てきています。

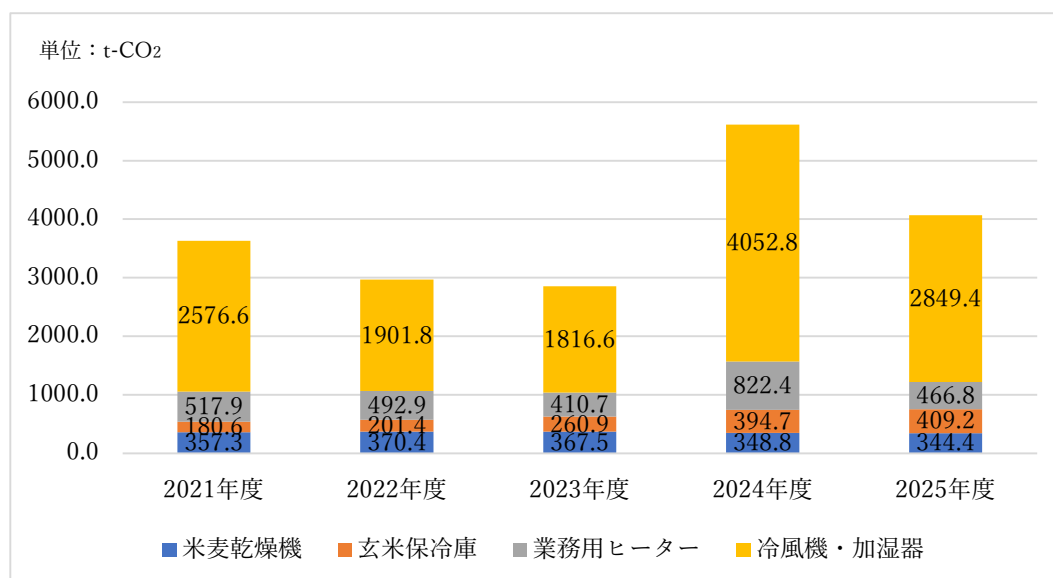


【省エネ製品拡販による CO2 排出量削減実績】

最新の環境配慮製品を販売することで従来機等と比較し CO2 の発生を抑えることが出来ます。こちらは値が大きいほど CO2 の排出を抑制できたと評価されます。

過去にはコロナ禍の影響により販売活動の縮小を余儀なくされ、特に冷風機はその影響を受けてしまうことがありました。

2025 年度は猛暑の影響で冷風機のお求めが多くなり、CO2 排出量抑制の貢献の一翼を担うことができたと思います。



社内外のコミュニケーション

環境マネジメントシステム内で要求されるコミュニケーションについては、社内では品質環境推進委員会を通じて様々な情報が共有されます。社外のコミュニケーションは、毎年、創立記念式典日に合わせ、工場近隣にお住いの皆様を招いての工場見学・意見交換会を開催しています。



地域貢献

静岡製機は、工場周辺の美観維持へ協力するため、定期的に清掃作業を行っています。また、袋井市の大規模イベント『ふくろい遠州の花火』大会には当日運営スタッフ、大会終了後の清掃ボランティアと多くの従業員が参加し大会を盛り上げています。地元自治会、教育機関には創業100周年を記念し環境配慮型業務用熱機器を寄贈いたしました。



緊急事態の対応

不測の事態に備え、環境マネジメントシステムでは、緊急事態の特定とその対処方法が求められています。静岡製機では、環境マネジメントシステムの運用の中で手順を設け、社内での事故および緊急事態を想定し定期的な手順のテストを行っています。



